

試験研究成果広報活動事業

愛媛県の水産業や、水産研究センターおよび栽培資源研究所における試験研究の現状と成果を広くPRし、水産業と水産研究に対する理解を得るとともに、生産者に対して研究成果の普及をおこなった。

I 研究成果情報研修会

1 水産研究センター

(1) グローカルイノベーション出張講義

日 時：令和5年5月25日（木）13:50-14:50

場 所：宇和島南中等教育学校

出席者：137名

テーマ：「南予の水産業について～日本一の養殖産地を技術で支える～」（谷川室長）

(2) 獣医学部企業情報特論

日 時：令和5年6月30日（金）15:00-16:30

場 所：岡山理科大学今治キャンパス

出席者：205名

テーマ：「スマに代表される新魚種開発の現状と課題」（谷川室長）

(3) 魚食普及講習会

日 時：令和5年8月2日（水）9:00-15:00

場 所：IYO夢みらい館、下灘漁協

出席者：10名

テーマ：「愛媛の水産業と愛媛県の海の環境」（松岡主任技師）

(4) 魚食普及講習会

日 時：令和5年8月4日（水）9:30-15:00

場 所：さいさいきてや、ダイイチフーズ

出席者：17名

テーマ：「愛媛の水産業と愛媛県の海の環境」（松岡主任技師）

(5) 魚食普及講習会

日 時：令和5年8月18日（水）9:00-15:00

場 所：西条市食の創造館

出席者：14名

テーマ：「愛媛の水産業と愛媛県の海の環境」（松岡主任技師）

(6) 魚食普及講習会

日 時：令和5年8月21日（水）9:00-15:00

場 所：愛媛県漁協宇和島研修センター

出席者：20名

テーマ：「愛媛の水産業と愛媛県の海の環境」（松岡主任技師）

(7) 農業研究開発・産業創成特別講義

日 時：令和5年10月19日（木）14:30-16:00

場 所：愛媛大学農学部

出席者：50名

テーマ：「愛媛県の水産業と技術開発」（谷川室長）

(8) スーパーサイエンスハイスクール出張講義

日 時：令和5年10月26日（木）15:45-16:05

場 所：宇和島東高等学校

出席者：179名

テーマ：「南予の水産業について～日本一の養殖産地を技術で支える～」（谷川室長）

(9) 研究成果報告会

日 時：令和6年3月11日（月）13:30-16:00

場 所：愛媛県南予地方局

出席者：50名

テーマ：「全国のスマート水産業」（はこだて未来大学 和田雅昭教授）

「本県周辺海域の水温等の動向について」（神野研究員）

「貝には貝リングル液を使いましょう」（西川主任研究員）

「愛媛県におけるα溶血性連鎖球菌症Ⅲ型の発生状況について」（原川主任）

2 栽培資源研究所

(1) ノリ養殖技術研修会

日 時：令和5年10月3日（火）13:30-16:00

場 所：愛媛県東予地方局西条第2庁舎

出席者：23名

テーマ：「クロダイの生態とノリ養殖」（広島大学 海野徹也教授）

「燐灘の水温変動について」（竹中室長）

(2) 日本さばける塾

日 時：令和5年12月9日（土）13:30-15:30

場 所：西条市食の創造館

出席者：20名

テーマ：「ノリ養殖とそれを取りまく海の環境変化について」（竹中室長）

(3) お仕事フェスタ

日 時：令和6年3月7日（日）10:00-16:00

場 所：アイテムえひめ

来場者：41名（当所ブースへの来訪者数）

内 容：「水産業関連研究者」として愛媛県の水産業や研究所業務について説明（竹中室長、喜安主任研究員、友田研究員）

Ⅱ 「水産研究センターだより第 16 号」の作成・配布

次の内容で令和 6 年 3 月に作成し、関係者に配布するとともにホームページに掲載した。

- 近年のウルメイワシの漁況とその利用について（武田研究員）
- 水産生物のゲノム解析―遺伝情報を活用した養殖業―（森研究員）
- ノカルジア症の状況と今後の対応について（鈴川室長）
- クルマエビの標識放流について（関谷主任研究員）
- サワラがレッドリストに掲載された話（清水室長）
- 稚魚飼育棟が完成しました（谷川室長）
- 新施設紹介

Ⅲ 県民とのネット交流（ホームページの運営）

ホームページを適宜更新し、県民、漁業者等へ最新情報を提供することにより、水産および試験研究についての理解を深めてもらうことに努めた。また、ノリ・アオノリ養殖期間中の水温・栄養塩濃度など、漁業者等へ最新情報を提供した。

1 水産研究センターHP アドレス

<https://www.pref.chime.jp/soshiki/99/>

2 栽培資源研究所 HP アドレス

<https://www.pref.chime.jp/soshiki/100/>

Ⅳ 見学者・視察者等への対応

水産業および試験研究についての理解を深めてもらうため、水産研究センターを来訪した見学者・視察者等への対応をおこなった。来訪者数は水産研究センターが 74 名、栽培資源研究所が 526 名であった。（表 1、2）。

表 2 見学者への対応（栽培資源研究所）

No	月 日	来 訪 者	人数	備 考
1	4月27日	松前小学校	130	
2	5月11日	立川小学校	25	
3	5月17日	個人	1	
4	5月18日	個人	2	
5	5月23日	北山崎小学校	44	
6	5月29日	個人	1	
7	5月30日	岡田小学校	106	
8	7月25日	個人	2	
9	8月4日	個人	4	
10	8月11日	個人	2	
11	10月23日	由並小学校	17	
12	10月26日	個人	1	
13	11月16日	個人	6	
14	12月11日	新田青雲中学校	10	
15	12月12日	福音小学校	47	
16	12月27日	個人	2	
17	1月31日	下灘小学校	10	
18	3月7日	北伊予小学校	93	
19	3月29日	さくら幼稚園	18	
20	2月27日	個人	1	
21	3月8日	個人	4	
計			526	

表 1 見学者への対応（水産研究センター）

No	月 日	来 訪 者	人数	備 考
1	4月17日	愛媛大学南水研	15	
2	6月8日	宇和島水産高校	5	
3	7月8日	結出小学校	5	
4	6月14日	企業視察	4	
5	7月10日	結出小学校	5	
6	8月25日	番城小学校	4	
7	9月20日	愛媛大学理学部	1	
8	10月23日	宇和島市議会	7	
9	11月16日	吉田高校	2	
10	11月22日	海外	3	
11	2月2日	南予地方局	14	
12	2月20日	遊子小学校	9	
計			74	

水産関係試験研究機関一般開放事業

地域に密着した試験研究を推進し、あわせて研究成果の普及と水産への理解の浸透を図るため、一般県民に施設を開放する交流事業（通称「ふれあい魚タッチング」）及び試験船に乗船・航海する体験学習を開催した。

I ふれあい魚タッチングの開催

水産研究センター及び栽培資源研究所の施設の一部を開放して、試験研究や業務の内容について理解を深めてもらうことを目的とした。

水産研究センターと栽培資源研修所の2か所で同時開催し、合計で158名の来場者を受け入れた。なお、水産研究センターについては、施設工事の関係から、事前申し込みによる定員制で実施した。

- | | |
|--------|---|
| 1 日 時 | 令和5年7月30日（日）10時～15時 |
| 2 場 所 | 水産研究センター（宇和島市）および同栽培資源研究所（伊予市） |
| 3 来場者数 | 合計 158名（水産研究センター48名、同栽培資源研究所 110名）
大人76名（水産研究センター 20名、同栽培資源研究所 56名）
子供 82名（水産研究センター 28名、同栽培資源研究所 54名） |

4 内 容

(1) 水産研究センター（宇和島市）

1) 相談コーナー（一日相談室）

水産業や海に関する質問に答える相談コーナーを設けた。

2) 展示コーナー

① 常設展示

水のない水族館、漁業形態模型、真珠の養殖過程、魚介類の種苗生産過程、漁業生産統計などの展示をおこなった。

② 研究成果パネル展示

水産研究センターの業務内容や各種試験研究成果を増養殖分野と資源環境分野に分けてパネルで紹介した。

3) 体験コーナー

① 顕微鏡観察

海水中のプランクトンや魚の稚魚、エサ生物などを顕微鏡で観察した。

② 工作・実験コーナー

海藻おしばを使ったしおりや葉書づくり、スライムづくりなどをおこなった。

③ ふれあい水槽

地先に生息する魚介類を直接手に触れることのできる水槽を屋外に設置した。

④ 給餌体験

水産研究センターの海面筏で飼育されている養殖魚に配合飼料を給餌した。

⑤ 放流体験

水産研究センターの船着き桟橋でマダイ稚魚を放流した。

4) 来場者の感想

聞き取りでは、来場者から「参加者からは魚に餌をあげるときのしぶきが上がってびっくりした」「ちりめんモンスターの中からレアなタツノオトシゴを発見できてとても嬉しかった」「生きた魚に触れて楽しかったなど楽しかった」など好評であった。

(2) 栽培資源研究所（伊予市）

1) 相談コーナー（一日相談室）

水産業や海に関する質問に答える相談コーナーを設けた。

2) 展示コーナー

① パネル展示

栽培資源研究所の業務内容や試験研究成果、魚介類の生態写真等をパネルで紹介した。

② 水槽展示

当研究所で生産したキジハタ、トラフグ、アワビや、瀬戸内海に生息するメバル、カワハギ、マアジなどの魚介類を屋内の水槽で展示した。

③ 常設展示

水のない水族館、漁業形態模型、漁具展示、魚介類標本展示、おさかなクイズなどを行った。

3) 体験コーナー

① 海藻おしば教室

海藻おしばを加工して、しおりやフォトスタンドを作成した。

② ミクロの世界（顕微鏡観察）

プランクトンなどの顕微鏡観察を行った。

③ ふれあい水槽

地先に生息する魚介類を直接手に触れることのできる水槽を屋外に設置した。

④ トラフグの放流体験

希望者を対象に森漁港で、午前・午後の2回、トラフグ稚魚の放流を実施した。

4) アンケートの実施

来場者にアンケートを依頼し、87名から回答を得た。その結果を表1に示した。

表1 アンケート結果（栽培資源研究所）
（回答数87）

	区分・内容	割合(%)
年齢	就学前	16
	小学生	31
	中学生	2
	16～19	0
	20～39	21
	40～59	24
	60～	11
性別	男	47
	女	47
住所	伊予市	32
	松山市	47
	松前町	8
	東温市	1
	砥部町	5
	大洲市	0
	その他	3
誰と来たか	ひとりで	1
	家族で	97
	友人と	2
	その他	0
始めてか	初めて	51
	来たことがある	49
何で知ったか	広報誌	9
	ホームページ	37
	知人・友人	33
	学校・幼稚園・保育園	13
	テレビ・ラジオ	0
	その他	6
どうだったか	おもしろかった	87
	まあまあおもしろかった	10
	おもしろくなかった	1
来年もきたいか	はい	98
	いいえ	0
おもしろかった コーナーは	スライドショー	1
	写真パネル(談話室)	7
	研究紹介(水産教室)	9
	押し葉工作(水産教室)	60
	水のない水族館? 展示物	33
	顕微鏡観察・展示室	20
	各種展示物・図書	6
	タッチ水槽	46
	トラフグ稚魚放流	53
	水槽展示(実験棟)	31
	その他	7
仕事内容が わかったか	よくわかった	46
	まあまあわかった	45
	よくわからなかった	3

Ⅱ 体験学習の開催

一般公募した県民の方に海洋調査等を体験してもらうことにより、試験研究業務への理解の促進に努めた。なお、水産研究センターについては、台風の接近に伴い、宇和海でのうねりの発生が予想されたことから、開催を中止した。

- 1 日 時
- 令和5年8月5日（土）9時～12時
- 2 場 所
- 伊予市沖合（栽培資源研究所）
- 3 参加者数
- 大人8名
子供6名（子供は中学生以下）

4 内 容

参加者は調査船「ゆり」に乗船し、栽培資源研究所沖合の伊予灘で次の観測、調査を体験した。

- (1) 海洋観測
- 伊予市沖合で気象・潮流観測、水質調査等を行った。
- (2) 生物採取
- 調査船からプランクトンネットを使って垂直曳きした試料を持ち帰り、顕微鏡でプランクトンを観察した。
- (3) アンケート調査
- アンケート調査を実施し、参加者（19名）から回答を得た。結果を表2に示した。

表2 乗船体験学習アンケート調査結果（栽培資源研究所）（回答数6）

この研究所に来られたのは初めてですか	初めて	4
	来たことがある	2
体験学習を何でしりましたか	県などの広報誌	0
	ホームページ	1
	新聞などのちらし	0
	知人・友人から	1
	学校で	3
	テレビ・ラジオ	0
	その他	1
体験学習の内容は理解できましたか	よく理解できた	6
	少し理解できた	0
	あまり理解できなかった	0
	理解できなかった	0
どんなところが面白かったですか(いくつでも)	船にのったこと	6
	機器類で観測	3
	透明度の測定	4
	プランクトン採集	4
	けんびきょう観察	6
職員の説明はどうでしたか	その他	1
	よくわかった	6
	すこしわかった	0
	あまりわからなかった	0
期待していた体験ができましたか	十分できた	6
	少しできた	0
	あまりできなかった	0
研究所のしごとがわかりましたか	できなかった	0
	よくわかった	4
	少しわかった	2
このような「体験学習」の開催についてどう思いますか	わからなかった	0
	もっと開いてほしい	4
	年1回程度でよい	2